

21世紀への 新しい学問のスタート

「汎太平洋フォーラム」の設立と展望

新野幸次郎

△神戸大学経済学部教授▽

増田

光吉

△甲南大学文学部教授▽

大島

襄二

△関西学院大学文学部教授▽

安川

克己

△神戸大学理学部教授▽

坂口

忠司

△神戸大学工学部教授▽

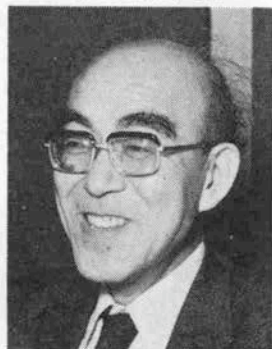
溝井

泰彦

△神戸大学医学部教授▽



新野 幸次郎 さん



増田 光吉 さん



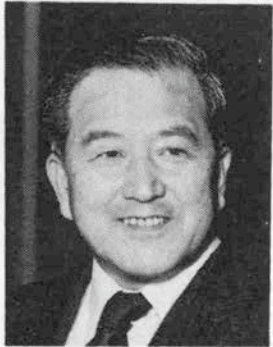
大島 襄二 さん



安川 克己 さん



坂口 忠司 さん



溝井 泰彦 さん

——太平洋とその関係諸国の自然と人間に関わる問題を
兵庫県内の七大学が共同で調査研究する「汎太平洋フォ

ーラム」が1月27日、ポर्टアイランドの国際交流会館
で開かれた設立総会を機に正式発足の運びとなりまし

た。一県単位の、しかも大学や専門の枠を超えた共同研究の取り組みは全国でも珍しく、国際都市を目指す神戸ならではの試みと、各界から期待の声が寄せられています。また、今年は世界コミュニケーション年に当たり、太平洋地域への関心の高まりとともに時宜を得たスタートといえるでしょう。今回は、汎太平洋フォーラム理事長の新野先生をはじめ中心的メンバーでいらつしやる六先生方に、同フォーラム発足の経緯と今後の展望、さらに各ご専門を通じた国際交流のよりよいあり方についてお話ししたいと思います。

フォーラムの前身は海洋科学研究センター

新野 まず、汎太平洋フォーラム設立の経過ですが、発足に当たっては、私自身というよりは坂口先生、安川先生らが中心となって下準備がなされました。最初に両先生からご説明いただき、その後、補足すべき点があれば私がお話しするということになりました。

安川 実は、どこを「発端」にしたらいいか悩んでいるんです。あえて限定するとしたら、以前、神戸大学にあった海洋科学研究センター設立の動きが挙げられるでしょう。センター構想そのものは臨調予算の影響で一頓挫しましたが、その時間関係した我々が「せっかく集まったのにこのままバラバラになるのは忍びない。いつそのこと、太平洋に興味を持つ人の集まりにしては」と言い出したのが、そもそのきっかけです。それからのいきさは、構成員、組織力の優れた坂口先生の独壇場ですから（笑）ご本人に続けてもらった方がいいでしょう。

坂口 研究センターは理、工、農の三学部で構成されるはずでしたが、その準備過程で気づいたのは、日頃、接触のない三学部の人が集まると、よい意味での刺激を受けるということでした。互いの研究内容を話し合う場が、まず必要ではないかと考えていくうちに、段々欲が出て一大学の枠を超えた規模の集まりの方がベターではないか……と構想はふくらんでいきました。その段階で新

野先生にまどめの中心になっていただき、他大学や市、県などに働き掛けをしていただいたわけです。その間、私自身が印象深かったのは、お声を掛けたほとんどの人が積極的に賛同して下さったことです。これが大きな励みとなり、どうにか設立総会までこぎつけることができたポイントだと思います。

新野 私の方は、今お話しがありましたように、構想が実ってから参画しました。色々と話し合いを重ねる中で単に太平洋の自然科学的分析だけでなく、広く人文・社会科学など全分野を網羅した研究組織にしようということになり、県下の各大学に協力を呼び掛けました。幸い関西学院大学にしても、甲南大学にしても年来、個人的にご指導いただいている先生がいらつしやり、その先生方を通じて各大学長先生の賛同も得られました。

また、ご存知のように県は国際交流には非常に熱心ですし、市もまた「国際都市」「コンベンション都市」構想を標榜しその分野には大変に力を入れています。さらに、商工会議所も、ちょうど東南アジアについての勉強会を開いて行こうと考えていた矢先とあって、ぜひバックアップしたいと約束して下さいました。こうして各方面にお願いし、今日に到ったわけです。

考えてみると、国公私立や学問の枠を超えた研究体制の結成は全国でも初めてのことで、しかも、期せずして世界コミュニケーション年に当たりました。新聞報道への反響も大きく、機運は高まっています。ただ、フォーラムはスタートしたばかりで、今後うまく動くようになれば、もっと沢山の先生方に興味を持っていただけるのみならず、リーダーシップをとってもらえるようになるでしょう。「あすなろう」よりも、もっと現実的な意味で将来、期待を掛けて努力しなければならない組織だと思っています。

生かされていない神戸の土壌

——では、各ご専門を通じたフォーラムへの抱負と、各

大学の国際交流の現状についてお聞かせ下さい。

増田 現在、京大教授の米山俊直先生が甲南大学にいらした頃、環太平洋の研究体制を作ってはどうかと言われたことがあります。その時は「えらいごつついこと言うな」(笑)と聞き流していましたが、それが今、実現できて大変うれしく思っています。

ただ、永年フォーラムの準備を進めて来た神戸大学に比べると甲南は、いわば「二次感染」みたいなものですから(笑)、大学内部の意志統一がとれていません。多分、賛成者は多いと期待しておりますが、学長以下、学部単位の討論を重ねたうえで、名簿を提出したいと思いますので、ご了承下さい。いずれにしても、インターユニバーシティという型で、今後、学際的にも神戸大学がリーダーシップをとって下さればありがたいですね。

さて、学内の国際交流の現状について触れますと、あまり知られていませんが、甲南にはイリノイ大学と提携した交換留学制度があり、7期生の今年は33人の米国学生を一年間、教育しています。これは、同大学を窓口としてハーバードやコーネルなど向こうの私学を対象にした留学制度です。最初は、学内にもかなり抵抗がありましたが、7年目にしようやく自然な感じになってきました。非常によろこんでいるのは、十分とはいえないまでも全学部に渡って英語で講義ができる体制が組めたこととです。

新野 ほおー。それは立派ですね。

増田 神戸との関連で申しますと、これは、イリノイ大学から提携のプロボーズを受けた後で同大学の人から聞かされた話ですが、神戸の大学を選んだ理由は「神戸の土地柄が気に入った。東京は学生に日本を体験させるにはふさわしくない」というんですね。事実、それを立証するものとして、うちのプログラムでは学生全員がホーム・ステイをしているわけです。当初は私も懸念したのですが、年を追うごとにホスト・ファミリー探しにはほとんど問題がなくなりました。ただ、神戸にはこうした

国際的な土壌がありながら、それを十分に生かしきれていないくらいがある。大学側ももっとエーリア・スタディーを強化するとともに、市民の間でも普段の受け入れ体制を完備する必要があると思います。

肩のこらない集まりがあってもいい

大島 関西学院はその成立のいきさつからして国際的であるはずですが、個人的には国際的でありながら組織的な対応は従来から十分とはいえませんでした。とはいえ現在、アメリカ、カナダ、インドネシア、中国各研究会があります。とくに関学の創立に深く関わるアメリカの南メソジスト大学(SMU)とは毎回、学生や教授の交換をしており、向こうではこのプログラムが高く評価されてSMU以外の学生にも人気があるようです。また、学内には留学生を受け入れる国際センターを設け、そこではSMU留学生のため年間を通じた英語の授業も行われています。実は、以前、学内の研究プロジェクトとして「伝統文化とキリスト教」をテーマにアンケート調査を行ったことがあります。太平洋圏をフィールドとした国内の研究者二三百人を対象としたものですが、その集計をみて非常に印象的だったのは、多くの方々が、互いに情報から孤立した効率の悪い仕事をなさっているという事実です。まさに、専門を超えたインター・ファカルティ(学部連合)、さらにインター・ユニバーシティという型での協同研究の必要性を痛感しました。

溝井 坂口先生や安川先生のお話の続きになりますが、大学の運営会議とは違った、もっと肩の凝らない集まりがあってもいいのではと、かねがね思っていました。やや次元が低いかもしれませんが(笑)、互いの研究の内容や知識を交換できる場があれば、どれほど楽しいだろうと考えていたところへ、坂口、安川両先生のお話をうかがい、それは面白そうだと飛びついたわけです(笑)。

医学の面から神戸大学の国際交流をみると、79年から文部省と学術振興会の指導で医学交流センターがスター

トしています。これは、神大を窓口とした日本とインドネシアの学術交流機関で、将来はフィリピン、シンガポール、タイなど対象国を広げるにはどうすべきかを検討中です。

以上は医学だけでやれることですが、それでは手にある領域があります。例えば、最近の遺伝子工学の発達によって色々な病気の原因が究明されていますが、これも医学だけでなく生物学の方々の共同研究の成果といえるでしょう。また、私の専門とは少し異なりますが、血液型を調べて行くと、アジア人と白人では血液型の分布に顕著な違いがあるというデータが出ています。こうした「民族」に関わる問題は、人類遺伝学や社会学、あるいは地理学、言語学など多分野に渡った知識の交換がなければ解決できないでしょう。そんな意味で、医学だけでなく色々な先生方と学術交流が可能な今回のフォーラムには、大いに期待しています。

日本人の視点で見た太平洋を

安川 外国生活とか外国人学者との共同研究などは外して、個人的な国際交流の経験はと言えば、一昨年春から昨年の正月にかけて、民族、医学、水産など各大学の研究班とともに鹿児島大の船でフィジーへ行ったときのこと挙げられます。フィジーには2週間足らずの滞在でしたが、現地の南太平洋大学との協力体制も完璧で、スムーズに仕事ができました。その時、感じたのは、とくに開発途上国との共同研究の場合は、こちら側が積極的に働き掛けていかなければ、向こうも一生懸命になってくれないということです。

一方、南太平洋の島へよくよく出掛けて行くようになって気づいたんですけど、現地人をアルバイトに雇うことはあっても、調査にかまけて彼らとの人間的なつき合いがないのは問題ですね。

大島 ものの見方という意味で我々が注意しなければならぬのは、外国の文献や既存の資料に、ほとんど毒さ

れていると言っているほど先入観を植えつけられていることです。それを、今、安川先生がおっしゃった現地の人達との関りで思いました。端的な例を挙げれば、キリスト教の宣教師たちが非常にいい仕事をしたことには違いありませんが、彼らははっきりとした価値観を持っていた。つまり、ヨーロッパの価値観から外れたものを「未開」と呼び「悪」と呼んで来たわけです。それを翻訳したものを日本人が読み、同じ立場で見ているのに問題はなにか。以前、メラネシアを訪れたとき、とある現地人が、白人の人類学者に嘘の民話を話してやったと得々として告白するのを聞かされたことがありました。彼に言わせると、日本人は同じ有色人種で白人のように自分たちを奴隷あつかいせず、仲間になってくれると信じている。それは、パプア・ニューギニアのある州知事が我々を迎えて「私達もあなた達も同じアジアだ」と挨拶した心情と同じだと思う。アジア諸国を訪ねた日本人は絶対にヨーロッパ人と同じ見方をしないでしょう。そうすればもっと色々なものが見えてくるはずですよ。これからは日本人でなければ見られない太平洋を考えなければいけない気がしますね。

坂口 フォーラムそのものは大規模になってしまいましたが、私自身の原点はあくまで、色んなことを知りたいという知的好奇心です。また、最近、自分の中に余裕が出たせいか、諸外国にも目が向くようになってきました。それは単にデータが欲しいということだけでなく、各国民の生活を知りたいということです。国際交流の原点は個人と個人のつき合いに他なりません。工業的な問題だけで処理してきたものを、もう少し幅広い視点からとらえて行けば、新しいエンジンニアリングの方法がみつかるかもしれない。それを解明するのがフォーラムへの期待です。

新野 いつの間にか猿回しの猿の役を引き受けてしまいました(笑)、経済的に見ても、例えば日本の輸出の27%が米国、27%が東南アジアと、実に過半数を超えた部

分が太平洋地域に集中している。現在、問題になっている貿易摩擦にしても、フォーラムでの交流を通じて有効なアプローチができるに違いありません。

また、神戸、兵庫県下を中心に新しい学門研究の雰囲気作りにも役立つと同時に、マスコミを利用して、研究成果を広く発表することによって、神戸のひいては日本の国際化に貢献するきっかけができると思っています。

外国人の参加が当面の課題

大島 関学にはASEAN関係の講座がありますが、そこでは年に1、2回、インドネシアの総領事に講師を務めてもらっています。せっかく神戸にいながら、そういう機関を使わない手はない。彼らは広報用の映画や資料も持っており、機会さえあれば出たがっています。神戸大阪にある大使館や総領事館を有効に使えば、先方の意向にも添えるし学生のためにもなる。神戸の地の利をもっと有効に使うべきですね。

新野 神戸には消費者運動にしても、合目的、先進的な活動が実り易い、独特の気質や風土がありますしね。

坂口 フォーラムの定款には書かれていませんが、準備段階では外国人会議も考えていました。外国人関係者の参加も当面の課題のひとつといえます。

大島 各大学にいらっしゃる外人スタッフの中にも、声を掛ければ必ず参加される方がいらっしゃるはずですよ。新野 うまく行けば、大学の枠を超えた講座の開設も夢ではありません。

坂口 神戸大学を見ると、外国学生の年次的な増加率は想像以上に高い。以前「国際交流」というと、少し構えていたものが日常化してきたということでしょう。ただ、陸続きのヨーロッパ諸国に比べると日本の国際化は未だしの感があります。例えば向こうでは2、3カ国語を話す人はざらですが、日本だとお隣の中国語すら満足に話せる人は少ない。そういう意味で、外国人が珍しく映らない神戸の国際性を今後も伸ばして行きた

いでですね。

フォーラムは21世紀への胎動

新野 以前、宮崎市長がアジアからの、とりわけ私費留学生に経済的、または人間関係における問題が多いので大学側に検討願いたい、と発言されていました。フォーラムの中でも今後、ご提案願えたらと思います。

薄井 留学生会館など関連施設の整備状況は各大学、いかがなんでしょうね。

大島 それもありますが、留学生を隔離してしまつては日本を学んだことにはならないと思います。

新野 そうですね。ホーム・ステイが無理ならホーム・ビジットでもいい。さらに、日本人学生と協同生活ができる施設などもどんどんできればいいですね。

増田 ホーム・ステイの場合、英語の話せない家の方が留学生も必要に迫られて日本語を覚えていらいしい(笑)。

坂口 今後、国際交流を進めるうえで言葉の問題は重要ですね。片言でもいい、現地の言葉話すと相手の表情が途端に変わって親密度を増してくる。あたりまえのことですが、意外と日本人は気づいていない。

増田 話は違いますが、米国の離婚率が非常に高いと騒がれていますね。ところが、統計的にみるとインドネシアが世界一らしい。高齢化の問題にしても21世紀には高齢者の5、6割がアジアに集中するなど、アジア、オセアニアを総合的に考える必要性は益々高まっています。

新野 そうしたエリア・スタディーズから、逆に日本が学ぶことも沢山あるでしょうね。

坂口 さらに、諸外国が日本に期待していること、本当に必要としていることが学べれば、それが最高の国際交流の礎になると思う。また、フォーラムを通じて、学問的にも一段レベルアップし、21世紀の胎動としての新しい学問のスタートにしたいですね。

安川 一言つけ加えるなら、楽しい会としても成長して欲しいですね(笑)。(ブランドウブランにて)

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区旗塚通 6-3-10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉
神戸市中央区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三
神戸市中央区三宮町1丁目9-1-807
センタープラザ東館8F
TEL (078) 392-2101

株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市中央区三宮町1丁目10-1
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594



動物園飼育日記

—〈209〉—

亀井一成

〈王子動物園学芸員〉
写真撮影

旧諏訪山からのヒグマ逝く



満三十五才、(人間では90才位) 最長老だったヒグマの「ママ」がこのほど老衰死した。もう、あの旧諏訪山動物園を知っているのはゾウの諏訪子だけになってしまった。老化のため足腰が弱まり視力も衰え運動場への出入にも不自由な動きを見せていたが、食欲だけはあって、好物のアシパンやビスケットを持って呼びかけると「ウフーン」と返事をしてくれたのもつい一週間程前のこと



ママの回想写真。右は生後2ヶ月の子供にお乳を飲ませているところ。左は9ヶ月に成長した子供と遊んでいる

こんなに早く逝ってしまうとは誰も思わなかった。暖い春を目前にして、と思うと残念でならないママの死だった。

【戦後初の猛獣だったヒグマ夫婦】

昭和二十五年三月神戸産業博覧会が現王子公園で催された。その呼びものにインドゾウの摩耶子を導入、その飼育員だった私は二十才、木造のゾウ舎にクサリをかけて飼育を始めた。勿論夜も泊りこみの毎日が続いた。

ある朝、ヒグマが逃げた、という知らせを受けた。「あのメスグマや、」私は逃げたクマがあのだちらかだとすぐ分った。暇を見ては会場内に若いヒグマ二頭が来ていることを知って以来よく触りに行っていたからだ。やはり50キロ位のオスではなく、小さい方のメスグマが逃げていた。鎖の扱い方が小さいだけ、油断して十分に繋いでいなかったのが原因であった。北海道郷土館でのアイヌ彫り実演場横に二頭のヒグマがクサリに繋がれ夜はオリに入れてあった。その若い二頭のクマが、ボバイとママ、どちらも二才を迎えたばかりで人にもよく馴れていた。

半年の会期終了後、ゾウは旧諏訪山動物園のゾウ舎へ徒歩で移ったが、実演場横に置かれたヒグマ二頭の飼主が突然帰郷、誰もいなくなったヒグマの処遇に主催者側も困り果てていた。それなら引き取りに来るまで、ということでも諏訪山動物園でゾウと共に飼育することになったのである。しかも運びこまれたオリが戦争中にいたシロクマ舎であった。そのオリの天井や壁には生々しくかっつてのシロクマの生命の跡が残っていたこと、私ははっきりと覚えていた。

【斜面建築の先駆者諏訪山動物園】

金星台へ向けての諏訪山公園へ急斜面の山道を登って諏訪山動物園の入口があった。山側に事務所と出口口。入園すると子ザルやオーム類、山側はアシカ、ペンギン、ニホングマ、オオヤマネコ、その向いにハクチョウ、オシドリの水禽池。さらに南側に売店。その地下が

動物の調理場であった。売店前が園長室。そしてゾウ舎その北向いにシロクマ舎があった。さらにビューマ、ヒョウ、トラ、ライオン舎、モンキーホール。階段通路下に設けたワニ、ニシキヘビ舎。その中段にラクダ、最もとにタンチョウ、インドオオヅル、カンムリヅル舎がある。このツル舎は現在も王子動物園で改修保存され、オオヅルやガン類の禽舎として使用している。山の斜面を余すことなく利用した動物園でシカ、ヤギ、メンヨウなどは、野生そのまま斜面にフェンスを作り、放し飼いをしており、クジャクの放し飼いは日本でも有名だった。王子動物園へ移転後、一部鉄骨舎は撤去もしているが、基礎部分はそっくり残されており、跡地に立てば今も、かつてのことが生々しく甦ってくる。斜面動物園であるが故、飼料の搬入や汚物の撤去は毎日何回となく背おつての人力運搬。おかげで足腰の筋力が至って強くなつた。

【十二産十五頭出産育児の記録】

開園六年後の一月、初産二頭を出産、無事育てて以来十五年間に十二回、十五頭の子を母乳で育てた。その母性は王子動物園史不滅の記録である。出産当時の餌クマは雑食だから蒲焼に使つたあとの、あの骨と頭ばかりのアラをおよそバケツ二杯。毎日、三の宮市場内のウナギ屋にまで貰いに行き、ゴリラやチンパンジーの食べ残しの白菜やイモのヘタをバケツ三杯。それにライオンやトラの残した鯨肉、さらに園内食堂の残飯を入れ約三時間大釜でとろとろ煮つめる。つまりクマのチャンコ鍋だ。これを、オスのボパイもメスのママもががつがつ食べ、よく肥り、よく子を生んでくれたのであった。

(現在クマ類の餌。焼魚。クマ用ソーセージ、パン、サツマイモ、白菜、リンゴなどでチャンコ鍋は何時の間にやら炊かなくなつてしまつた。)

【ヒグマの赤ちゃん20センチ400グラム】

クマの妊娠期間はおよそ六カ月。毎年十二月末から一月上旬に一〜二子を生む。哺乳は投だし坐りで、乳頭は



大きくて、優しいボパイとは大の仲良しでした

三カ月かかった。つまり十二月末に生まれた子グマが春ようやく母親と穴から姿を現わす頃だ。その可愛くてたまらない子グマを、そろそろ運動場へ母親と出し始めた時、やつとのこと寝床をあげ、大掃除ができるチャンスでもある。

【穴こもり山盛りウンコの謎】

動物園でも出産近くなると稲わらや落葉ですり鉢伏の巣を作り、うずくまったら、もう巣を決して汚さない。冬眠じゃなく、穴こもりだから餌は与えれば幾らでも食べるし、ウンコやシッコもする。だが、その清潔ぶりには驚いた。狭い寝室に一カ所ウンチの場所があつて、出産後も子を胸に抱いては用便を行い、三カ月以上も積上げられている。だが何故か野生では腐敗臭がないという。子連れの母グマは荒々しい。無理に掃除することは避けるべきだろう。ならば樹皮や樹葉を食べさせると固形便となる。つまり自然食が、そうした冬の穴ぐらを汚さないのである。私はそう考え、毎日のようにチャンコ餌に樫の葉や野草を添えることを忘れなかった。また、若グマ当時はこのママをクサリで連れだし、ショーをもさせた。だが思春期を迎えていたママは猛然と私に襲ってきた。その時左腕に重傷を負つたその傷跡がママから貰つた勲章として今も残っている。ママ、ありがとう。

胸から腹に四つあってその母親の姿はまるで人間そっくり。眼は一カ月しないとき開かないし、歩きだすのに

話題のひろば

< I >

● 個性的な専門店経営を探る 長野の専門店チーム 神戸セミナーの旅



左上は商工会議所特別室でパネルディスカッション（2月3日）右上は北野クラブで親睦会（2月2日夜）右下は北野町英国館で三浦明定館長を囲んで真剣に議論、左下は英国館で神戸セミナーを終って記念撮影。

SBC放送の特別企画として信越放送局営業部（田島利雄部長）が「個性的な専門店経営を探る「神戸セミナー」の旅を企画。二月二・四日の旅行日程で、長野市の専門店経営者約二十名が、このユニークな企画の旅に参加して神戸を訪れた。二月二日ワシントンホテル着。その夜は北野クラブで夜景と神戸ステッキを満喫。三日早朝九時から神戸商工会議所特別会議室で、永田良一郎（永田良介商店社長）／芹澤豊男（ブティックセリザワ社長）／小泉康夫（本誌編集長）が講師となり、コーディネートした本誌小泉美喜子が進行役をつとめ「神戸の専門店の体質と動向、未来」をパネルディスカッション。地方の時代といわれるなかで、キャラクターのある商店街にいかに関与するかを真剣に討議した。星からは神戸の街を自由に視察、夜は海皇で親睦会、サントノーレでパーティとなごやかに過ぎ、翌日、四日は英国館で三浦明定館長が「北野町界隈の観光の中のショッピング動向」を語り、特に長野の街への提案もあって文化遺産と観光の接点やオリジナルブランドづくりの内容等いきいきとした議論が、フロインドリーブのケーキと珈琲が香る異人館の中を飛びかった。いろいろの昼食後、自由行動「神戸セミナー」は四月に「長野セミナー」へと受け継がれて新神戸駅を後にした。

● THE ARIMA SPA
IN APR. ●

湯の街

有馬歳時記

今月是有馬温泉観光協会専務理事の永岡大純さんをお訪ねして、有馬温泉のちよつと隠れた見所をお伺いした。

★秀吉遺愛の「亀の手水鉢」

有馬温泉の見所と言いますと、瑞宝寺跡公園、鼓が滝公園、炭酸泉公園、ゆけむり広場などの公園、温泉寺、湯泉神社などの社寺と、いろいろありますが、あまり知られていないけれど、これはぜひ見て欲しいという「隠れた見所」を教えてくださいたいのですが。

永岡 そうですねえ、なかなか難しいですね（笑）。四月という、これは時期が遅すぎますが、湯泉神社の上にある梅林。七、八年前に有馬ライオンズクラブと有馬温泉観光協会によって植樹されました。実はこの場所に太閤秀吉遺愛の「亀の手水鉢」が置かれています。

秀吉が使った手水鉢が、ですか。永岡 まあ、そう伝わっているんですが、その形が亀のように見えるんです。

この場所からさらに登ると、あたご山

公園へ出ます。この道は町なかにありませんが、本当に山路という感じのするいい道です。眺望もすごくいいですよ。

有馬温泉は自然に恵まれている温泉郷ですが、四季折々の花も美しいところですね。

永岡 梅といえば林溪寺の紅梅は有名ですが、かなりの古木ですが。

「花は有馬に、あたごのこぶし、東み堂の未開紅」と古歌に詠われていますね。

永岡 そうです。元禄時代に再建されたときに、本願寺門主が立ち寄り、梅のつぼみが殊の外、深い紅色をしていたのを賞めて「未開紅」と名づけたと言われて



あたご山にて永岡さん

旅は出会い

ほのぼの心を添えて

政府登録（登録第78号）

●月光園

神戸市北区有馬町318
TEL (078) 904-0366

有馬の歴史を語り続ける「いで湯の宿」

銀水荘

別館 楽山

TEL (078) 904-0622

別館 楽

TEL (078) 904-3656

欽山は典雅な

日本風の館です

国際観光旅館



欽山

TEL (078) 904-0701代

敷地内から湧きでる
日本最古の温泉「有馬温泉」

阪急ホテルチェーン

有馬ビューホテル

TEL (078) 904-2295代

温泉と演芸と遊技場

有馬ヘルスセンター

TEL (078) 904-2291

いますね。この実を食べると子宝に恵まれると言われています。

★沙羅双樹の白い花

他にはどのような花がありますか。

永岡 稲荷山のごぶしも綺麗です。これは遠望がいいですね。三月下旬が見どころです。

桜となると善福寺でしょうね。確か兵庫県の名木に指定されていると思うのですが、しだれ桜があります。四月の初めには美しく咲き誇っています。ここには大正三年四月に国宝に指定された聖徳太子の木像（聖徳太子御二歳像）があります。

若葉、新緑の季節となりますと、瑞宝寺跡公園、鼓が滝公園などがとくにいいですね。

瑞宝寺跡公園といえば紅葉の美しさでもっとに知られていますね。別名「日暮しの庭」とも呼ばれていますね。

永岡 そうですね。

永岡さんがご住職をされておられる

念仏寺には沙羅双樹があると聞いております。

永岡 ええ。これは自己アピールみたいになつてしまふのですが（笑）、私どもの寺の前庭にあります。沙羅双樹はナツツバキのことですが、六月中頃の、それも小雨が降っているときなんか実に風情があります。

——沙羅双樹と言いますと、「平家物語」のなかにも出て来ますね。

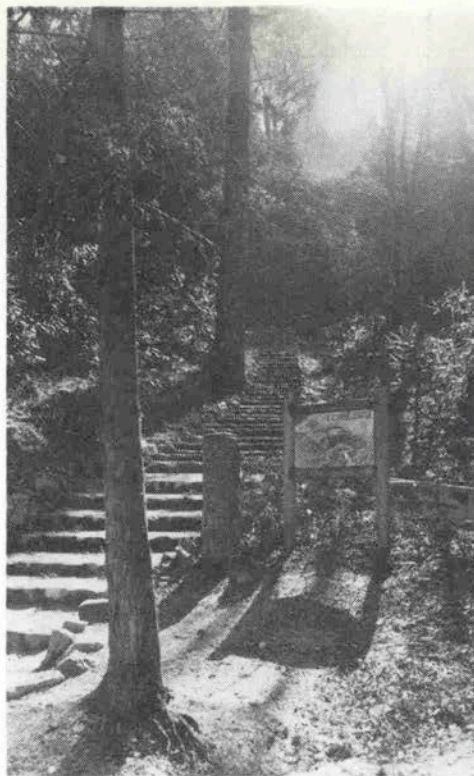
永岡 花の姿に無常感があるんですね。花は一日で落ちてしまふんです。数えてみしたら一番多いときで五百ほども花が落ちていました。

他にはどういふところがあるんでしょうか。

永岡 そうですねえ。妙見寺への登り道なんかもいいですよ。路傍に三十三カ所の札所の名前の入った観音像が並んでいます。

——妙見寺は落葉山の頂にありますね。

永岡 あそこからの眺めもまたいいですね。



ごぶしの花の美しい「あたご山公園」

雅ただようくつろぎの館

中の坊 瑞苑

TEL (078) 904-0781

会議セミナーから御家族づれまで

有馬グランドホテル

TEL (078) 904-0181

結婚式場を完備しています



伝統と格式を誇る

兵衛

向陽閣

景勝高台の近代旅館

TEL (078) 904-0501代

テニスでいい汗
いい湯にとっぷり
味に集う



TEL (078) 903-1024

木造りの宿

御所坊

TEL (078) 904-0551

自然の恵みを
湯けむりに伝える

政府登録国際観光旅館

古泉閣

TEL (078) 904-0731

★神戸の集いから

★日経新聞神戸支社が

井植文化賞受賞を祝う

「神戸の中堅一五〇社」六甲海へ翔ぶ」の2冊で、同賞（報道出版）を受賞したのは昨年6月。しかし「仕事柄、時間がとれなかった」（中西平四郎支社長）との理由で祝賀会が延期されていたが、ようやく2月9日、国際会館4F兵庫倶楽部で催された。樺木茂男神戸経済同友会代表幹事をはじめとする神戸財界人約40名が参集、日経側からも約20名が出席した。「一五〇社」といわず、二百、三百と続けてほしい」の声が、同社に対する神戸財界の期待をうかがわれた。



支社員が並んで

★第28回神戸二紀展授賞式と懇親会

今回の受賞者は、田村賞の大童徹氏、泉知事大賞の谷口和氏らをはじめとする13人。その授賞式と懇親

会が、2月2日、北野の六甲荘で行われた。六甲ライオンズ神戸JCなどの主催者側から約20名、一般会員約80名の参加となった。また、フランス、モロッコ、韓国などから外国人も参加し、国際色豊かな会となった。



授賞式を見守る面々

今回は最後まで歓談する人が多く、熱気あふれる神戸二紀会の集りだった。

★三村晴彦・野村芳太郎監督が神戸シネマハウスへ

2月8日、松竹映画「天城越え」のキャンペーンで三村晴彦監督、野村芳太郎プロデューサーが神戸を訪れた。神戸国際日活で試写が開かれた後、三宮高架下にある「神戸シネマハウス」に映画ファン約30人が集い、両氏を囲んでフリートークィング。活発な意見と質問が飛び、そのひとつひとつに

両監督は熱心に応えていた。三村監督は野村監督の助監督を長年務め、この「天城越え」がデビュー作。新人を育てたいと野村監督自身がプロデュース、入念に大切に撮り上げた意欲作である。

★重森守「阪神版木」出版記念パーティ神戸で



三村・野村監督を囲んで

出版記念パーティ神戸でアサヒファミリニユースの編集長重森守さんが、コラムをまとめた「阪神版

木」の出版記念パーティが、流の輪が拡がった。狩谷公子さんの琴、西村紀子さんの唄などで宴は賑わった。



女性をはさんで 重森氏(右) 鹿島氏(左)

「私の本をサカナに交流が出来れば嬉しい」と重森さん、泉の三木出納長、土井芳子さんがスピーチ。神戸新報社も、鹿島武行新編集長の紹介もあり、元町画廊の佐藤廉さんの乾杯で交

♡小泉パーティご案内

小泉パーティは結婚を希望する男女にお見合や愛好会によって健全なご交際のお手伝いをいたします。身元の確かなことは良縁の第一条件です。身元の確かな方々の会員制の集いです。

・入会金 10,000円・年会費 10,000円

神戸マリッジへ（無料）

楽しいご婚礼のお買物をご予算に応じてプランニングし、神戸の一流の専門店をご紹介します。

＜協賛店＞

家具の江戸屋・宝石のタジマ・ふとんのつゆき 紳士服のニッケショールーム・和装のみよしや 旅行の日本旅行・他各種の専門店

小泉パーティのご案内・入会書類ご希望の方は事務局 〒650 中央区江戸町100 高砂ビル510 コミュニティサービス内 392-0200 小泉正巳

● 小山乃里子ノコちゃんの

華麗なる食べある記



△103▽ レストラン

鹿鹿 皮

△104▽ 寿司

又 平

□ 鹿鹿 皮 (ARAGAWA)

★馬目備長で焼き上げる極上の炭焼きステーキ

木の重たい大きな扉を開けると、ふうんと、まきの焼けるにおいがした。

なつかしい香りである。小さい頃ストーブにまきや石炭を入れるのが役目だったっけ。

大きな暖炉、もう春とはいえ、風の冷たい寒い日だったから、うれしくなってかけ寄った。

本当に、このだんろが似合う店である。木とれんが、それもピカピカに光った柱や、椅子の背もたれ。壁で人目をひくのは、鹿の首のはくせい。眼がなんともいえず可愛い。鹿の字を三つも並べて書く位だから、何かいわれがあるのかと思えば、バルザックの小説の題名から店の名をつけたのだそうである。昭和二十六年の開業、生田神社の東門筋にあったが、昭和三十八年から、この回教寺院の通りに変わった。それにしてももうここ二十一年、とにかくおいしいステーキを焼き続けてこられたわけである。

ステーキの命はなんといっても肉。本場の但馬牛のみを使っているが、それも、生れて三〜四ヶ月のべっこ（仔牛）を三田に連れて行き四・五才まで育てて牛肉に。（なんと未婚のめすのみだって）三田は気候、草の状態などで、牛を育てるのには一番適した土地だという事だが、それにしても、悠長でぜいたくな話ではないか。そうやって店に来た牛肉は、良質の肉の脂身の部分を取り去り、クシにさして、炭火でとろとろ焼かれるのである。この炭も、馬目備長といって、備長の中でも特等品を使っている。

味つけは、塩とコシヨウのみ。肉を味わうにはソースはいらない。表面はこげ茶色に、ナイフを入れると、なんともいえない赤味がじわっと広がって、口の中で、そのうまみが倍增する。かたくもなく柔らかくもなく、適当な歯ざわりはさすがである。

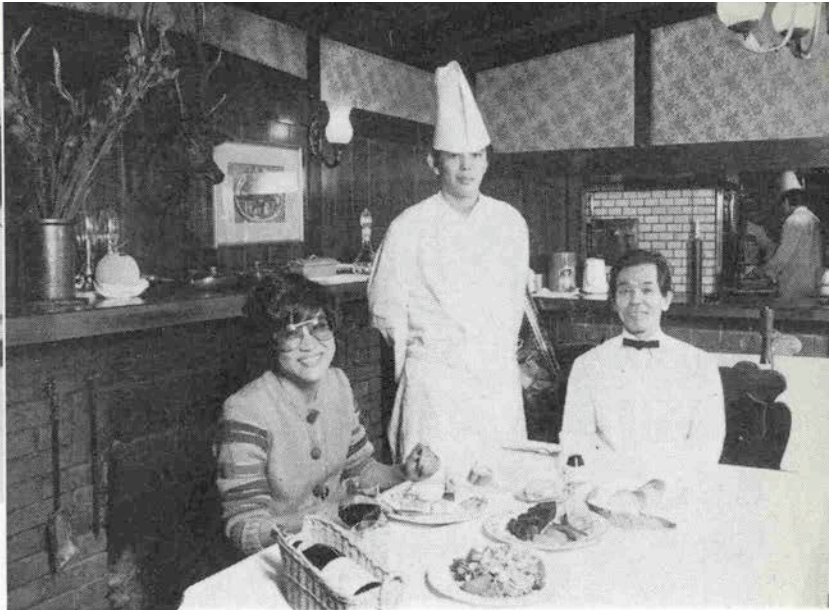
オードブルに鯛のテリヤキをいただいた。自身の鯛の中に、うすいピンクのサーモンが色どりを添えて、柔らかくてとてもおいしかった。

メニューによれば、他に、ターターマリアカラス風なんてのもある。自家製のフォアグラやスモークサーモン



▲左/小エビのサラダ 上右/鯛のテリーヌ 中央/サロインステーキ

「おかげさまでニューヨーク店も好評を頂いております」と田代弘行シェフ（中央）と福井豊隆マネージャー（右）



もおいしそう。サラダは、シュリンプサラダをいただく。あつさりしたドレッシングに、山盛りの小海老。

もう肉は少しおさえなくちゃあ、という方向きには、とりのグリルや魚貝類（ほたて貝など）の料理も頼める。ニューヨークの、セントラルパーク近くにも、おととしの六月に店を出したそうで、社長は只今長期出張中だった。焼けばいいみたいなアメリカのステーキを思い出して、知ってれば行つたのに、と一人くやんだものである。フイレミニオンスステーキ／6000円、シャトルブリアンスステーキ／12000円、ロースステーキ／12000円、サロインステーキ／12000円、フォアグラ／3000円、テリーヌ／2500円、中央区中山手通2丁目15-18 電話2211-8547 正午／午後9時（ラストオーダー）無休 予約必要

□又 平

★「細雪」にも登場した、歴史と伝統の又平寿司

「大体、若い娘さん誤解してるんちゃうか。寿司食べたらふとる、と思ってるのとちがうかなあ、こんな美容食はないのに……」。

椅子に腰かけるなり、のつけから又平のおやじさんはぼやく。

「一石二鳥ゆうけど、寿司は一石三鳥や。健康によし、美容によし、栄養はたっぷり、うちの酢なんか、りんご酢に蜂蜜に米酢が調合されてんやから、ほんまに身体に良いのになあ……」。

若い娘だつてお寿司は大好きのはず、と言おうとしてそういえば、「あんな、ごはんばっかりのもん食べたらよけいふとるからいや……」と、こないだも二十すぎのんに言われたつけ。「何言うてんのん、あんたもナウくないねえ、アメリカなんか見てごらん、にぎりはヘルシーフーズ、美容食やねんよ、お米も、ライスサラダなんて言われてもててもやし、ニューヨークのお寿司屋さんなんて、ずらーっと並んで待ってるのよ」と、ほんの少し知識をひろうしたら、彼女はニコニコ付いて来た。戦



▲上左/信州蒸し 上中/にぎり寿司、岩戸寿司 上右/
鉄火巻き、穴子巻き、中央/いかだ寿司 右/付き出し
「寿司は美容食です。健康、美容に良し、栄養もたっぷり
だから太らないし美人になるヨ」と尾崎寿夫さん

前戦後、場所は少し変わったが、生田神社の西門前で店を出して、もう五十五年という。

林与一さんのおじいさん、又一郎さんの当り役。〃どの又平から、店の名をつけたといわれるように、以前から、歌舞伎の役者さんや、俳優や歌手が、この店にはたくさん来る。といって、彼等の色紙が並べてあるわけではもちろんない。色紙どころか、お品書きのたぐいも壁には一枚も見あたらない。

あるのは、一週に一度はみがき上げるという、大きな白木のカウンター(十五席)、水漕も、昔は置いたこともあったらしいが、今はその代り、お客の名前を焼き上げた大きな湯のみ茶わんが、棚にずらりとならんでいる。

何よりネタが新しい。私は特に魚が大好きで、又平に行く時は、空腹もいところで行くから、たいてい、「なんでもいいからにぎってえー」とわめいてしまうが、ちょっとおながおさまって来ると、いかだ寿司などももらう。白身の魚をちよつと焼いてにぎってある。その下にまだ身のついた骨もあぶってあるから、それもコリコリと食べる。私が特に好きなのは、ちりにぎりである。

今日はおこぜだったが、日によって変わる。山椒こんぶと塩でしめた魚を入れて、とろろこんぶで巻いた岩戸寿司、てっかの逆巻き。あわびつて、妊婦が食べると、目のきれいな子供が生れるんだって知らなかった。

おわんのふたをあけるとおそばだった。信州蒸し、とのことで、季節によってはこういう一品料理も出て来る。一口で食べられる大きさだから、本当にいくつでも食べられる。私は、マンションのすぐ下にある御影店ばかり行ってたんだけど、ここの兄いさん面白いから、時々三宮にも行こう、と決めて、「こちそうさま...」

1人前/7000円位から おまかせ(吸物付、皿盛り)/25500円
岩戸寿司、いかだ寿司、信州蒸し他、中央区下山手通2丁目11-26(生田神社西門横) 電話331-0935 正午~午後10時 日曜定休 予約必要
御影店/東灘区御影山手5丁目2-16 電話841-3366

自立して街で暮らそう！

—神戸を訪れたエド・ロング氏の講演から

橋本 明〈社団法人「家庭養護促進協会」事務局長〉

国際障害者年から二年。今、欧米の各地では障害をもった人たちの自立への試みがさまざまな形で行なわれている。もちろん日本の障害者もそれをめざして日夜努力を続けていることはいままでもない。

この二月に「ボストン自立生活センター」の技術指導員であり、自らも進行性筋ジストロフィーで車イスの生活をしているエド・ロング氏が来神し、神戸市勤労会館で障害者自立運動について自らの体験をまじえながら貴重な講演が行なわれたのでその要旨を紹介したい。

ロング氏の勤務するボストン自立生活センターは、自立をめざす重度障害者の相談に応じたり、住宅や介護人の斡旋はもとより、所得保障の求め方、大学進学への促進など個人個人のニーズに応じた援助をしており、また重度障害者のために数か月間モデルアパートで生活技術訓練を行い、地域で生活ができるような訓練サービスも行なっている。アメリカには約一五〇カ所ほどこのような障害者のための自立センターがあるが、ボストンのセンターでは三〇〇人が訓練を受けており、その九〇パーセントが重度の障害者であり、アメリカの障害者自立運動に先駆的役割を果たしてきている。

わたし自身のこと

私が六才の時、医者には私の両親に私が進行性筋ジストロフィーという難病で、おそらく十四、五才ぐらいまでしか生きられないだろうと言いました。でも私の両親は

「私を他の子どもと特別扱いしない」と決め、買い物でも皿洗いでもなんでも工夫をしてさせました。学校は普通の子どもと同じ学校へいきましたが、そこを終えて障害者の職業訓練校へ行った時、まわりがみな障害者ばかりなので驚き、ショックを受けたものです。十七才の時、身体具合が大変悪くなったのでずっと一日中家のソファに横になったままの生活が続きましたが、一人で家に閉じこもってしまおうになると、何でもすごく恐れるようになってしまいました。アメリカでは子どもは十七、八才になると両親から独立して自立した生活をするようになりますが、私もチャンスがあつてボストンを離れてニューヨークに住むようになり、それが私の自立への旅立ちでした。私は今四十三才ですが、不可能と思われることでもやろうと思えばできるものだということ



難病と闘いながら障害者の自立運動をすすめる
エド・ロング氏



(上) 障害者の自立運動について講演するロング氏
(左) ボランティアとして働くビダーセンさん

を学びました。はじめからできないと思わずに、どうしたらできるかを考えることです。アメリカでは「一時的な健常者」といういい方をよくします。人間は時々病気になるったり、骨折したり、妊娠をしたりして、障害をもつ状態になったり、またそれがなくなったりするからです。ある人は眼鏡をかけているし、補聴器をかけている人もいます。また、車イスにのっている人もいます。これらはみな同じことなんです。太陽の光はみんなに平等にそそぐのと同様、障害者もみんな同じ権利をもっているんです。もし私がこんな障害をもっていなかったら、おそらくもっと小さなことしかできなかったでしょう。大事なのは心のもち方、人生の受けとめ方なのです。

障害者自立運動について

「自立」という考え方は今特定の国だけでなく、世界的な動きになっていきます。アメリカの障害者の人権運動は一九五四年にアラバマ州での黒人による人権運動に端を発し、広がっていきました。私の住んでいたマサチューセッツ州では最初いろんな障害者のグループが各々の利益のためにバラバラに要求を主張していたのですが、「障害者全部の利益のために」一致団結して行動するようになり、それが全米の組織となって二〇〇〇万人の障害者が参加し、法律を改正し、リハビリテーション法をも改正するようになりました。

ちも最初は病院で暮らしていた人がたくさんいます。その人たちは病人ではないのに、「障害」があるために他に行く所がなくやむを得ず病院にいたわけです。しかしほとんどの人たちが病院を出て「自立」した生活を望んでいたのです。一九七四年に、二人の学生が病院生活をやめて町で暮らしたいと考え、アパートを借りて自生活を始めました。翌年にはさらに三十人がホテルで自立生活をしはじめたのです。町の中のアパートや家で住むことがよいとみなが考え、実行しはじめたのです。アパートでまだ一人で暮らせない障害の重い人たちには自立センターのアパートで数カ月訓練をうけ、自立の技術を学びます。ただ、自立といってもアパートで一日中何もしないで暮らすことは自立でもなく、やはりそこから学校や職場へ通うことが大切なのです。障害者が地域で自立することによって建物の構造や設備を障害者が生活しやすいように変えていくことができますし、一般の人たちの障害者に対する態度も変わり、またそれによって障害者自らの態度も変わっていくものです。日本でも病院や施設を出て自立していこうという人たちがでてきていますが、ただじっと待っているだけでは自立した生活は望めません。いろんな運動をして社会に働きかけていくことが必要なのです。

ロング氏の講演と同時に、現在神戸市須磨区の神戸愛生園でボランティアとして働いているデンマーク人のリサ・ビダーセンさん（20才）が体験を報告。「ボランティア活動を通して私自身人間として成長しました。障害をもった人たちの美しい気持を社会に伝えたい。デンマークでも障害者がどんな町の中へ出て自立しようとしています」と上手な日本語で語りかけた。

日本でも地域のなかでみんながともに暮らせるためのいろいろな試みがなされているが、アメリカの障害者自立運動は貴重な示唆を与えてくれるだろう。

●兵庫界隈記 (24)

野鳥が憩う兵庫運河を

街づくりの拠点に

梶井直三郎△歌人▽

★心に染みついた運河の思い出

私の父は解の船頭だった。昭和五、六年頃、父に連れられて、その寄場へ行って目刺しや鮭のおかずで弁当を食べた。そこは中央市場の北の運河を内側へ入った最初の橋、築島橋から入江橋へ直角に曲った、今の地図でいえば船大工町の角のあたりではなかったかと思う。私が六、七歳の頃である。

昭和十年、三菱職工学校を経て、昭和十九年、兵隊で神戸を離れるまで三菱神戸造船所の職工として、兵庫駅の南、いわゆる「駅裏」の路地の家から毎日西宮内の商店街を通り、清盛塚の側の運河にかかる第五橋を渡って通っていた。

★兵庫運河で発見した新しい世界

私は運河が好きだ。「運河」という言葉を聞いたた

けで、私の心の中にはあとと広がるものがある。運河に私が心惹かれるのは、幼少期に心に染みついたものがあるかもしれない。しかし、私がほんとに運河が好きだと言えるようになったのは、ここ七、八年前からである。病後の運動に、と今の私の家から歩いて五十分ばかりの高松橋から、浜中町、材木町へかけて運河最大の貯木場のあるところまで行くようになってからである。そこである夏の朝、



魚釣りも楽しめるようになった兵庫運河

雀とも鳩とも違う嘴の長い鳥が、原木の間を漁っているのを見た。その鳥をしっかりと見たいと思って双眼鏡を買い、鳥の図鑑を買い、それがキアシシギであることを知った。コアシサシも知った。ハクセキレイも知った。五十歳を過ぎて今まで知らなかった世界を見た。しかもそれが、全く身近な兵庫運河である。

★運河に漂う兵庫の匂い
それから休日で家にいれば必ず運河へ双眼鏡を持って出かけるようになった。行動範囲を伸ばすためにミニサイクルを買った。イソシギ、コチドリ、カイツブリ、ゴイサギが運河に来ることを知った。ユリカモメのしなやかな飛翔も今までに感じられなかった新鮮なものに思えるようになった。そうした運河通いのうち

120種類もの豊富な「かねて」製法。さまざまな味覚をお楽しみください。

国かねて

香り一番 味一番
サクリうまい

と いち
一の
奈良漬

お好み焼

美丁
Yoshicho

福原金比羅宮西入ル ☎575-7913
平日・PM3～PM10:30
金土日・AM11:30～PM10:30
水曜日定休日

ORIGINAL
TABI

Tabifuku
タビ福

本店 塚本通3丁目 ☎575-8868
センタープラザ西館2F ☎332-3500
センタープラザ2F ☎332-2767
メトロこうべ・神戸タウン ☎341-0439
さんプラザ3F ☎391-3720



株式会社 タビ福
ローソン 柳原店

☎576-0330

対する答えが冒頭の言葉

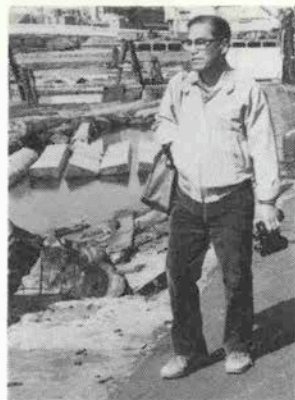
ストランを?との問いに
社。その社長が何故にレ
庫区中央卸売市場を基
点に活躍している貿易会
西日本青果といえは兵
「花扇」をオーブン。

日神戸南京町にレストラ
ン「花扇」をオーブン。
庫区中央卸売市場を基
点に活躍している貿易会
社。その社長が何故にレ
ストランを?との問いに

★レストランの夢を実現
理想の店づくりを
「ステキが、車海老が
伊勢海老が本当に旨い店
を開きたかった」と熱っ
ぽく語るのが西日本青果
の五熊健二社長。長年の
思いがかなって、3月1
日神戸南京町にレストラ



に、鳥にだけではない、運
河そのものの持つ「兵庫の
匂い」といったものに惹か
れるようになった。
歩み来る人ら貧しき運河



兵庫運河を散策する筆者

の岸豆腐
製造所製
材所など
並びて
葛原繁歌
集「運河
周辺」
これは兵
庫運河では
なく、横浜

の運河だが、この歌から感
じられる生活の匂いは同じ
ものである。
★下町情緒あふれる運河
まだ木の肌が生き生きし



五熊健二氏

「私が理想とする店は新
鮮な素材を手の込んだ料
理で素早く出せる店のこ
と。そのため収容人員も
15名程度におさえ、ゆっ
くりとしていただけの配
置にしてある」と構想を
語る。「レベルの高い南
京町で味で勝負」と意欲

的。ボトル
も「若干の
キープ料は
いただきま
すがお持ち込み可能」と
ユニーク。メニューもク
リーム煮、塩焼き、上質
の神戸肉、新鮮な生肉と
いう具合に和洋折衷、万
人向けとなっている。

□花扇/中央区元町1丁目3
6 電話 331・8911 水曜定休

ているような原木、風雨に
晒されて白くなった原木、
それらが細いワイヤに繋が
れ、ゆったりと肌を摺り合
わせるように水に揺れてい
る。原木から剥がれた黒い
樹皮を浮べた運河の水が、
時に早く、時にはゆるやか
に海に向って動く。
工場の音、市営住宅の子
供の歓声、原木を引くラン
チのエンジン、響き、筏師
の呼び交わす声、鳥の啼く
声、そうした音を載せて、
兵庫運河の水は動いている

★プレゼントコーナー

世界中の洋酒・ワインが
ズラリ揃った北野商店か
らプロが使っているソム
リエナイフを20名様に。
ドイツワイン・ブルーナ
ーの文字が入った小粋な
もの。春の夜のワインラ
イフに、ど・う・ぞ。。



ソムリエナイフ

希望者はハガキに住所、氏名
年令をご記入の上、左記までお
申し込みください。〒650 神戸市
中央区江戸町100 コミュニティサ
ービス館プレゼント部 4月20
日到着まで有効。



明るい色と
まろやかな味

新発売 OLIVER MILD

新鮮野菜とワインをベースにした
ごんがっしりとした、まろやかな味の
ごんがっしりとした、まろやかな味の

オリバー
マイルド



世界の洋酒
世界のワインが
楽しめる

株式会社 北野商店

本 店 兵庫区中道通1丁目4-31
TEL (078) 577-1181~3
山の街店 TEL (078) 581-2377
名 谷 店 TEL (078) 791-7171~2

慶びの家具



■本店/神戸市 兵庫区塚本通 2-1-1
☎ 078 (575) 3120 (代)
■エドヤインテリヤハウス/
神戸市 兵庫区大開通 2-1-2
☎ 078 (576) 0054 (代)

アヤマの豆カッパ



株式会社 有馬芳香堂

本社・工場 兵庫区下沢通7丁目1番2号
TEL (078) 577-3581
直売店 三宮支店、そごう店、墨水駅
ショッピングセンター、神戸デパート店
大丸新長田店(ジョイプラザ)

KOBE MODERN CULTURE

美術



★「小磯良平のすべて」

県立近代美術館で開催

4月9日(土)～5月8日(日)
兵庫県立近代美術館 午前10時～午後5時(入館は4時半まで) 月曜休
入場料/一般・800(650)円 中高生・600(450)円 小中生・300(200)円 カッコ内は前売・団体



踊り子像 (1939年)

わが国現代洋画壇の巨匠小磯良平画伯の60年におよぶ画業を集大成した「画業60年・小磯良平のすべて」が4月9日より画伯ゆかりの神戸で開催される。

画伯のモチーフは主として人物画だが、特に婦人像は有名、気品にあふれたさわやかな画風は多くの人々を魅了してきた。

今回の出品作品は画伯自選の油彩、パステル、デッサンなど約180点。小磯芸術の全貌を知るにふさわしい大回顧展である。

★小磯良平展に愛読者20名様をご招待。ハガキに住所、氏名、年令、職業を明記して、神戸っ子編集室「小磯良平展」係まで。締切りは15日。

★花鳥画の第一人者

「上村松篁回顧展」

4月14日(木)～19日(火)
大丸神戸店6階 入場料/一般・500円 学生・300円 小学生以下無料 図録・2000円

近代日本画壇に不滅の足跡を残した上村松篁を母にもつ上村松篁の回顧展が大丸神戸店で開かれる。



上村松篁回顧展より

特に花鳥画の第一人者と高く評価されている。今回は帝展初入選「閑庭迎秋」から最新作「雁金」にいたる代表作約50点が展示される。

★「上村松篁回顧展」に愛読者ペア20組をご招待。ハガキに住所、氏名

音楽



★神戸の音楽家たちによる

春のコンチエルト

4月10日(日) 2時 神戸文化ホール 一般・2300円 高校生まで・1800円、全席自由席

神戸文化ホール開館10周年を記念して、神戸の音楽家たちと関西フィルハーモニック管弦楽団との協演に



指揮/延原武春

よる盛り沢山の協奏曲の演奏会が開かれる。

独奏は人気ピアニスト伊藤ルミ、長年のキャリアを誇るマリンバの宮本慶子、オペラにソロに活躍中のソプラノ安芸栄子、多彩に活躍のテノール松本幸三、活発な活動を続けているピアノの武谷安子と清水淳彦。指揮は巾広く活躍中の延原武春。モーツァルトやベートーベンなど気軽に楽しめるプログラムとなっている

★「春のコンチエルト」に愛読者5名様をご招待。ハガキに住所、氏名、年令、職業を明記の上、神戸っ子編集室「春のコンチエルト」係まで。

★ザ・コンチエルト

林久美子、佐野健二、

林ゆ美子・大阪フィル

4月14日(木) 7時 ザ・シン
ニーホール 3000円

故林幸光の三女・林久美



林 久美子



佐野 健二



林 ゆ美子

子(ソプラノ)、四女・林ゆ美子(ピアノ)、長女のサノユリコの次男・佐野健二(ギター)の三人が大阪フィル(外山雄三指揮)をバックにファミリイな演奏会を開く。

モーツァルト/歌劇「後宮よりの逃走」、ショトラウス/ワルツ「春の声」、ロドリゴ/アランフェス「モーツァルト/ピアノ協奏曲第5」

★「ザ・コンチエルト」に愛読者5名様をご招待。ハガキに住所、氏名、年令、職業を明記して編集室「ザ・コンチエルト」係まで、締切り8日



スポーツ

★神戸新聞創刊85周年記念チャリティ大相撲神戸場所

